

巻 頭 言

長野県視覚・放送・情報教育研究会
会長 石川 政好
(長野県小学校長会長)

昨年度、下伊那の地で開催された第57回長野県視覚・放送・情報教育研究大会では、「教育メディアを有効に活用し、一人ひとりの子どもに確かな学力を身につけ、心豊かな人間性の育成を目指す」を大会研究主題に掲げ、多くの先生方が日頃の実践を持ち寄り、熱心な研究協議が行われました。また、公開授業では、子どもたちが一人一台端末を自然に使いこなし、仲間と考えを交流しながら学びを深める姿が見られ、教育メディアが子どもたちの学びを豊かに支える大きな可能性を改めて実感いたしました。大会の開催にあたり、ご尽力いただいた関係各位に、心より感謝申し上げます。



GIGA スクール構想の実現から数年が経過し、学校現場における ICT 環境は大きく進展しました。一人一台端末の活用は、もはや特別なものではなく、日常の学習活動を支える「学びの道具」として定着しつつあります。子どもたちは、情報を収集し、整理・分析し、仲間と共有しながら、自ら課題を見だし、その解決に向けて主体的に取り組むことが求められています。

その一方で、社会のデジタル化が急速に進む中、私たちは新たな課題にも直面しています。生成 AI をはじめとする新しい技術が身近になる一方で、インターネット上には真偽の定かでない情報も数多く存在しています。子どもたちが膨大な情報の中から必要な情報を選択し、その信頼性を吟味しながら、自らの考えを形成していく力、すなわち情報活用能力や批判的思考力の育成は、これまで以上に重要になっています。

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」においても、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが示されています。その実現に向けては、ICT を活用すること自体が目的ではなく、子どもたち一人ひとりの資質・能力を最大限に引き出すために、どの場面で、どのように教育メディアを活用するのかを不断に問い続けることが大切です。デジタルとアナログ、それぞれの良さを生かした「最適な組み合わせ」を模索しながら、授業改善を積み重ねていくことが求められています。

視覚・放送・情報教育研究会には、こうした時代の変化に対応し、先進的な実践や研究成果を広く共有することが期待されています。県内各地の実践を結び付け、校種や地域を超えて学び合うことは、教職員一人ひとりの専門性を高めるとともに、未来を担う子どもたちの豊かな学びを支える力となります。

今年度開催される第58回長野県視覚・放送・情報教育研究大会北安大会は、「自ら考え、自ら学び、未来を切り拓く子どもの育成～確かな学びと豊かな心を育む教育メディアの活用～」を大会主題として行われます。多くの実践発表や授業公開を通して、教育メディアの可能性について議論が深められ、研究の成果が県下の学校や先生方に広く共有されることを願っております。

結びに、本研究会の活動を支えてくださっております長野県教育委員会をはじめ、長野県市町村教育委員会連絡協議会、大北市町村教育委員会連絡協議会、池田町、松川村各教育委員会、教育関係諸団体の皆様に深く感謝申し上げます。また、大会運営に携わる実行委員会、授業会場校をはじめ、準備にご尽力いただいている全ての皆様に、心より御礼申し上げます。本研究会のさらなる発展と、長野県の視覚・放送・情報教育の一層の充実を祈念し、巻頭の言葉といたします。